

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成25年4月18日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 国際交流推進機構

職 名 機 構 長

氏 名 森 純 一

事業名	学生・若手研究者を対象とした育成プログラムへの派遣		
実施期間	平成 24年 4 月 1 日 ~ 平成 25 年 3 月 31 日		
実施場所	東京工業大学ほか		
参加者	総数 7 名	内 訳	学生7名(学部2名・修士課程1名・博士課程4名)
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	事業に要した経費総額	469,700 円	
	うち当財団からの助成額	469,700 円 (交付額1,000,000円、精算による返納額530,300円)	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	渡航費・滞在費	469,700	469,700
	合 計	469,700	469,700
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団より助成を受けたことにより、多数の学生を派遣し多くの成果をあげることができましたことをここに厚く御礼申し上げます。		

## 成 果 の 概 要

京都大学国際交流推進機構長 森 純 一

貴財団からの助成金により、学生を対象とした育成プログラムへの学生の派遣を行った。以下にイベント毎の概要と成果を挙げる。

### ARN サマーキャンプ 2012

開催日：8月24日～8月27日

開催場所：東京工業大学

参加者：修士課程学生1名（2回生）

概要と成果：

- ・テーマ

Nanotechnology and Nanoscience

- ・プログラムの内容

ポスターセッション、スーパーコンピューター等大学施設の見学、グループディスカッション、オープンディスカッション、専門家の講演

- ・成果

Nanotechnology 研究の最新の動向を知ることが出来、今後の研究の方向性について他の参加者から貴重な情報を得ることが出来た。

専門家の講演からは、研究者間の協力の重要性について学ぶことが出来た。

### 第13回 AUN Educational Forum and Young Speakers Contest

開催日：6月24日～6月30日

開催場所：ベトナム国家大学ホーチミンシティ（ベトナム）

参加者：学部学生2名（2回生）

概要と成果：” How can Asian youth achieves global citizenship and intercultural competence”

をテーマに、それぞれの意見・提案を、スピーチコンテストおよび教育フォーラムでスピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを行った。

参加学生たちは、他の国の参加者の英語力の高さやプレゼンテーション能力の高さに大いに刺激を受け、より能力を向上させたいという意欲を持つことが出来た。また国際社会のコミュニケーションにとって不可欠な異文化に対する寛容性の大切さを学んだ。さらに、海外に出ることによって、日本やその文化に対する海外での評価の高さを知ることもできた。

### GYSS Young Scientists Summit

開催日：1月21日～1月25日

開催場所：シンガポール大学（シンガポール）

参加者：博士課程学生3名（1回生2名、3回生1名）

概要と成果：講義、基調講演、グループディスカッション、講演者によるマスタークラス、シンガポール大学の施設見学を行った。

#### 第4回脳と心リサーチシンポジウム

開催日：8月29日～8月31日

開催場所：慶應義塾大学（日本）

参加者：博士課程学生1名（1回生）

概要と成果：「Does size of error affect the motor adaption during split-belt treadmill

walking?」のタイトルでポスター発表を行った。多くの研究者から興味を持ってもらえた。脳と心に関連する広範囲の研究分野の研究者が発表を行い、続けて議論を行った。特に参加者の研究領域である脳機能や神経系と身体の動作の関わりについての発表は非常に得るところが大きかった。

なお、この事業の計画時点では、Undergraduate Summer Program と Doctoral Students Conference の開催が平成 24 年度において予定されていたため、多数の学生の派遣を計画していたが、その後、開催校（ホスト）となる大学が決まらず、平成 24 年度には開催されないこととなった。そのため、上記のように当初の予定にはなかった学生を対象とした育成プログラムへの学生派遣も行ったが、ARN サマーキャンプ 2012 では開催地が日本国内で、かつ主催者側の都合により各大学 1 名の参加しか認められなかったこと、GYSS Young Scientists Summit では往復航空券以外は主催者側からの支出があり、また早い時期に航空券の手配をしたために非常に安価な航空券が入手できたこと等の理由により、計画よりも支出額が大きく下回ることとなった。

貴重な助成金をいただきながら、それを十分に活用できず、多額の返納額が生じたこととお詫び申し上げます。また、最後となりましたが、貴財団より助成を受けたことにより、上記のとおり学生を派遣し多くの成果をあげることができましたことをここに厚く御礼申し上げます。